

## 令和3年度富山県立大学入学式式辞

令和三年四月六日(火)  
アイザック 小杉文化ホール ラポール

今日ここに迎えた601名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。入学試験に合格し、今日の日を迎えられたことを心よりお喜び申し上げます。ご家族の皆様のお喜びもひとしおのことでしょう。

また、本日は、新田八朗富山県知事、五十嵐務富山県議会議長をはじめ多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和3年度富山県立大学の入学式を挙げていただけますことは誠に喜ばしく、教職員を代表し、関係の皆様方に、心より御礼を申し上げます。

昨年の入学式は新型コロナウイルス感染症のリスクを考慮して中止せざるをえませんでした。今年は皆様のご配慮により、入学式が挙げてできましたことを、本学教職員も喜んでおります。

皆さんは今日から大学生です。大学生になったらこんなことをしたいと、自らに期待をしてこの入学式に出席していることと思います。皆さんと同様に、私も皆さんに期待をしています。今日は、その期待をお話しいたします。

私は、先月、3月20日の春分の日に行われた富山県立大学の学位記授与式で、研究を登山に例え、卒業生の皆さんが山頂に登ったこと、つまり、研究の目標を達成し、その成功体験によって課題解決能力を獲得したことは、教職員の誇りです、と述べました。今日は、新たにこれから山頂を目指す新入生の皆さんに、私が期待していることをお伝えします。

気の早い話ですが、皆さんは、大学で研鑽を積み、卒業後社会で活躍するようになると、社会課題を解決する能力が期待されます。社会課題の例をあげてみましょう。夫婦が歳をとり、子供は成長して家を出て独立した。夫婦は歳をとって認識能力が衰えた自覚があり、運転免許を返納したい。一方で、定期的に病院で診察を受けていて、そのときの交通手段をどうしようか気になる。スーパーに買い物に行きたいが交通手段をどうしようか気になる。でも、ご近所のお世話になるのは気がひける。

交通手段は、少子高齢社会の典型的な課題です。それに対して、現在の制度を利用して、オンデマンドのジャンボタクシーが利用できるようにしよう、路線バスを充実させよう、料金のある程度地方公共団体が負担しよう、地域住民の車が乗り合える仕組みをつくらう、などが社会制度としての課題解決といえます。一方、高度な運転支援機能や、免許を返納しても乗れる搭乗型のロボットを製品化し、

同時に、万が一の事故に備えた保険や、既存の自動車と共存できる交通ルールを整備するなど、高度な技術と社会制度の視点が融合した課題解決も考えられます。医療看護の現場でも、工場の生産現場でも、少子高齢社会に伴う様々な課題があります。

地域社会や日本や世界が皆さんに期待するのは、このような課題を解決する能力、あえていうと「知恵」を身につけることです。とくに、富山県立大学の学生に期待するのは、高度な科学技術の知識に基づいて、過去の例に捕らわれることなく、柔軟に課題解決できる力です。そのために富山県立大学は、皆さんに、科学技術や医療看護のプロになることを期待しています。プロの知識と知恵を活かして、よりよい社会へ、変革の担い手になってください。

皆さんは高校生のときに知識を身に着けました。身につけた知識は大学で専門的知識を積み重ねるための、また社会で生きていくための、基礎的な知識です。教科現代社会で憲法のこと、日本史で平安時代のこと、古典で枕草子を学んだことは皆さんに教養の広がりをもたらしたものでしょう。一方、知識を身につけただけでは得られない、考える力を育むために課題解決の練習をしたことと思います。高校生だった皆さんは高等学校までの知識をもとに、この練習に取り組んだことと思いますが、たぶん、解決手段は「地域住民の車を乗り合える仕組みをつくろう」というような社会制度の変革だったのではないのでしょうか。

一方で、大学は、皆さんが専門性を身に着けるための高等教育機関です。では、なぜ専門性を身に着ける必要があるのでしょうか。私は、専門的知識をもった皆さんだからできる課題解決があると信じています。

先ほども述べたように、課題解決を伴う社会の変革は社会制度の見直しから生まれることもあるでしょう。また、技術革新と社会制度の見直しが相まって社会変革が生まれることもあるでしょう。私が、皆さんだからできると期待するのは、深い専門知識をもった人のみができる技術革新を活用し、異分野の人たちと尊敬し合いながらチームとして社会を変革する人材です。チームの中には科学的なシステムの取りまとめ役になりたい人、制度としての変革に重点を置きたい人、経済を通して変革したい人も含まれます。わたしは、「知恵」という言葉は、知識を活用して課題を解決できる能力として使いますが、皆さんにとって、専門的な知識と知恵を持つことは、社会変革の強力な力となります。

富山県立大学は、深い専門性をもつために、くすりのシリコンバレーTOYAMA プロジェクトを推進しています。これは、くすりの富山の強みをさらに強くするための研究開発プロジェクトです。また、来年、令和4年4月にはDX教育研究センターの利用を開始し、最先端の情報通信設備を導入して、セクションを越えた

デジタル・データの利活用ができる人材を育成します。さらに、再来年、令和5年4月には看護系の大学院を設置し、専門性の高い看護師や看護教員の育成を目指します。これらの活動と、卒業研究やその先の大学院教育などを通して、山頂への上り方、つまり、課題解決能力である知恵を皆さんは身につけることになります。

最後になりますが、お願いがあります。ここにいる皆さんは、地球規模の社会から見ると、ある程度均質な集合です。年齢も人種も、これから身に着けようとしている専門性も、外見や数字に表れる値は、ベクトルとしてほとんど同じ方向を向いています。しかし、外見や数字にならない、皆さんの価値観や感性や常識には、ずいぶん多様性があるでしょう。このような外見ではわからない多様性についても理解し、互いに友人として尊敬し合えるよう成長することを期待しています。あなたを、違う観点から引っ張り回してくれる友人、ちょっと周りを見ようよとあなたを揺さぶってくれる友人を作ってください。もちろん、皆さん自身も揺さぶる友人になるわけです。自分自身ではなかなか気づかない観点を気づかせてくれる友人、あなたにないものを持っている青春時代の友人は、一生の宝になることでしょう。そんな友人とキャンパスできっと出会えます。

改めて、富山県立大学に入学する皆さん、本日は本当におめでとうございます。

令和3年4月6日

富山県立大学 学長 下山 勲